

第 1 2 回旭市道の駅建設準備委員会 会議録

日 時：平成 2 5 年 3 月 2 2 日（金）

午後 3 時～午後 5 時 1 0 分

場 所：市役所 3 階委員会室

事務局：企画政策課

外部アドバイザー：（株）船井総合研究所

1. 開会

代理出席（平野（陽） 委員代理：旭市商工会伊藤副会長

林委員代理：海匠農業事務所改良普及課平野旭グループリーダー

堀江委員代理：浪川主幹）報告

欠席者 （飯田委員、菅生委員）報告

2. あいさつ

委員長：1 年間にわたり毎月開催した本委員会も、今回で 1 2 回目を迎えた。今回は一年間の締めとなる会議である。また、委員の皆様には一般の方に対しても道の駅の現在の進捗状況等について、今以上のアピールをお願いしたい。

市長：1 年間にわたる慎重審議の結果、平成 2 7 年度の開業に向け様々な検討項目において、目に見えた進捗があった。開業に至るまでにはまだ課題があるとは思いますが、それらを 1 つ 1 つ解決していくために、委員の皆様には今後も貴重な意見をいただきたいと思うので、よろしくお願いします。

3. 議題

（1）実施計画のまとめについて

- ・実施計画書については第 1 章～第 9 章の本章と参考資料（要綱及び名簿）、別添資料（会議録）で構成。
- ・これまで検討してきた議題内容（設置場所の選定、物販・飲食に関する運営計画、施設規模及びゾーニング、運営形態と人員計画等）の再確認を行なった。

各委員からの意見

委員：ゾーニングについて、飲食施設を花木スペースに隣接するような配置にし、花木を見ながら食事が出来るようになればよいのでは。

アドバイザー：施設の配置については悩ましい点も多い。花木スペースと物販施設の間に飲食施設を配置してしまうと、花木スペースから物販施設への導入率が低くなるのが想定される。あくまで旭市の道の駅のコンセプトとしては、1 次産品（農畜産物の販売）を第 1 に考えているため、飲食施設をあえて離している。飲食施設内のレイアウトを改良し、窓から花や緑が見られるようにすることは可能である。今後も施設詳細設計の段階で検討が必要だろう。

委員：埼玉県の道の駅では、普段は会議室として利用している和室を、団体の食事客が来た際に飲食スペースとして有効利用している。

委員：県内にある道の駅へ行った際大型バスでの来場が多数あり、団体客で大変な混雑をしており、一般客が入れないことが何度かあった。団体客を多く受け入れるとそういうデメリットが出てくる。

委員：以前に視察した道の駅のバイキング料金は一人 1,000 円である。旭市では現在 1,200 円を想定しているようだが、味や施設の魅力等で差別化を図らなければ厳しいのではないかな。

委員：味だけではなく、様々な付加価値により複数の項目で勝負すべきだろう。

委員：ある近隣道の駅のバイキングは一人 1,400 円だが、大盛況であり、先日行った時は 50 分待ちであった。値段がある程度高くても、内容次第では成功するのではないかな。

委員：飲食施設に団体客を多く受け入れることにより、物販施設の客も増える等のメリットはあるかもしれないが、運営当初は団体客の利用を想定しないでいいのではないかな。また、実施計画書はどの範囲まで配布する予定なのかな。

事務局：概要版を作成しホームページ上で公表する予定である。

委員：他の道の駅のゾーニングが非常に参考になるので、本委員会でも視察研修を再度行なう必要があるのでは。

委員：生産者組合で都市交流会を開催した際に、大型バス 2 台の受け入れをしたが、なかなか 1 箇所です食をとる場所がない状況であった。道の駅が完成すればこういった状況に十分対応できる。普段の営業については現在想定している規模でよいと思うが、団体客用のスペースが別にあれば、なおよいだろう。前回委員会でも紹介した富士宮市の施設では、土日等で混雑した場合に席を増やす事が可能な施設整備をしている。旭市でも簡易的な机やイスを用意し、一時的に飲食可能なスペースを拡大できるような対応ができればよいだろう。

委員：せっかく道の駅を建設するのであれば、多少のリスクはあっても規模を大きく整備しなければ、中途半端になってしまうのではないかな。常時団体客を受け入れる位ではないと売上げがついてこないだろう。また、実施計画書の冒頭に「食の郷道の駅あさひ」としているが、インパクト付けも非常に重要なので、例えば銚子市の犬吠崎が本州最東端を掲げているように、旭市の道の駅は「本州最東端の道の駅」等で PR してみてもどうか。

委員：道の駅の名称についてはどのように考えているのかな。

委員：公募がいいのではないかな。

委員：全国に PR するには、先ほどの意見にもあったように名称等も重要になってくるため、よいネーミングが必要になるだろう。

委員：実施計画書の概要版の公表方法は。

事務局：市のホームページ上で、概要版の公表を予定している。

委員：インターネット環境が無い世帯も多いので不便ではないかな。

委員：旭市は高齢者も多く、インターネットでの閲覧のみで幅広く周知できるか疑問である。

委員：「本当に旭市に道の駅が出来るのか」という意見をいまだに聞くことがある。回覧板等を活用し、なるべく多くの方に周知できるようにしてみては。

委員長：いまだ、「中小企業や小売業の経営圧迫にならないか」「進捗が遅い」等の批判めいた意見を聞くことがある。本準備委員会では「ここまで考慮して検討している」ということを一般の方にも強く感じていただきたいので、今回の実施計画書に基づく内容については委員の皆様からも強くアピールしてもらいたい。

委員：市広報紙での周知もよいのではないか。（全委員が賛同）

委員：自然食バイキングでの料理の提供は、ケース等には入れずオープンな状態で提供するのか。また、料理はどのくらいの時間出しておけるのか。

アドバイザー：料理については一度に全部を提供するのではなく、客数等を見ながら補充していくようになる。ケース等を取り扱っていると、利用客の開閉の手間が非常に面倒になる。料理はなるべく、細かい時間で区切った補充・提供を心がける必要がある。

委員：最近ではスーパー等でも、惣菜の提供をケース内から客が取り出して買うようなスタイルが多い。衛生的にもよい感じがする。

委員：衛生面で考えればカバーはあったほうがよいだろう。

アドバイザー：衛生面からすると、当然カバー等があった方がよいが、利用客の利便性を考えると難しい面がある。

委員：この実施計画書（案）は本委員会においての１年間の検討事項集約の結果であるので、委員の皆様からも様々な方面への周知をお願いしたい。また、用地取得費を含めた来年度予算についても先日の議会において可決されたため、開業に向けこれから益々順調に進んでいくことを期待している。

事務局：市民への「道の駅の計画」周知についてはみなさんからも是非お願いしたい。

委員：行政からの出資割合は、最低でも５０％は必要であるとの意見が多数である。資本金はＪＡ、商工会、漁協等の団体に金融機関も入れた出資のみとするか、市民等からの個人出資も受け入れるか等、今後法人設立委員会で詳細の検討をしていきたい。

委員：用地取得費が議会で可決されたことは、建設に向けた大きな一歩である。

事務局：道路用地の買収では、距離が長いと地権者の数が多くなるが、道の駅については地権者の数も比較的少なく、用地交渉を短期間で完了することが期待できる。

委員長：これからは農業、商工業関係の様々な団体の総会時期なので、事務局にはそれらに積極的に参加してもらい、道の駅の現在の状況等のＰＲをお願いしたい。

委員：各関係団体から道の駅に参加したいという前向きな意見をよく聞いている。

事務局：関係団体等への周知は非常に大事であるので、周知方法を今後検討したい。

委員：トイレは停電時も利用できるのか。

委員：防災機能の整備が検討されているので、対応は可能なのではないか。

事務局：蓄電設備となれば、それで対応できる。また、非常用電源での対応もありえる。

委員：県内道の駅を視察した際、「トイレ・駐車所の２４時間営業において一番困っている事は」との質問に、トイレトペーパーの消費量が予想以上に多い事が上げられていた。

委員：手動式井戸水のポンプを設けることはできないか。風情も出るし散水等であれば

それでは対応できるのでは。

委員：旭市の道の駅における太陽光発電についての考え方は、あくまで自家消費用なのか、売電をメインとし売上げ向上の一部とするのかアトバイザーの考えを伺いたい。

アトバイザー：まず自家消費を優先すべきではないか。道の駅における全ての使用電力を賄っても、なお余った分を売電できればよいと考えている。

委員：一般家庭での蓄電はほとんどないが、市内の学校で行なっている太陽光発電では蓄電しているのか。

事務局：蓄電ではなく使用電力としている。

委員：実施計画書（案）の防災機能の整備についての①～③の番号は優先順位を示しているのか。以前船橋や東京といった都市部の福祉団体との交流の際、「災害時一番大変だった事は何か」と伺ったら帰宅困難者への対応が一番であったとのこと。旭市では避難者対応が中心であり、帰宅困難者の対応はあまりなかったと思われるので、②の食料等の備蓄施設整備や災害時の支援物資の集積場所としての活用がメインになるのではないか。

事務局：番号については優先順位を表しているものではないが、付番については見直したい。道の駅には本来の目的（道路利用者の休憩や物販等）があるので、災害時にはあくまで一時滞留施設として機能し、その後避難所等に誘導することになる。

委員：東北地方の道の駅は、災害時に後方支援基地として機能したと聞いている。旭市の道の駅は付近に中央病院も控えているため、防災機能についても強く訴える事ができるだろう。いまだ防災拠点をメインの機能として整備した道の駅は無い。ここ数年は、国土交通省も道の駅の基本的機能に加え、防災機能についても大きく注目しているところである。

委員：現在の予定地に建設した場合、医療人口100万人とも言われている中央病院が隣接しているため、マスコミにも大きく取り上げられるだろう。旭市の目玉施設になるのではないか。

（２）来年度以降のスケジュールと検討項目について

- ・別添会議録については、今回分を追加し完成させる。
- ・完成（平成27年度）までの全体スケジュールの概略を説明。
- ・来年度（平成25年度）の建設準備委員会スケジュールの確認。
※平成25年度末には法人設立のための組織を立ち上げることになる。
- ・委員会について、来年度は毎月開催ではなく、全9回を予定している。（10月には視察研修の予定）

（３）その他

- ・平成25年度の第1回目の建設準備委員会開催日については、決定次第通知等でご連絡する。

終了